

保育のヒント～「科学する心」を育てる～

地域のカ／学校法人 ろりぽっぷ学園 ろりぽっぷ保育園（宮城県）

保護者や地域の方々との交流の場を、どのように作っていますか？また、専門家の方々の力をどのように保育に活かしていますか？今回は、保育の中で、子ども自身が直接、地域の方との関わる機会を作るなど、子どもの思いを実現するための保育の工夫をしている園の実践をご紹介します。子どもたちを取り巻く人々との豊かな関わりが、子どもたちの「科学する心」の成長を支えていることが見えてきます。



● みんなの疲れがとれるお風呂作り／5歳児

- ろりぽっぷ学園の保育園・幼稚園の3クラス合同で毎年実施しているお泊り会について、5歳児みんなで話し合う場を設けた。「カレー作りたいなー」「お風呂作って入りたい」「かき氷食べたい！花火したい！」「星を見ながら寝たい！」などと、お泊り会の日には「やりたいこと」が沢山挙がった。
- Nちゃん：「自分たちで全部やりたいね！」
保育者：「やりたいことはたくさんあるけど、お泊り会一日で足りるかな…」
Nちゃん：「じゃあ、グループで分かれてやったら良いんじゃない？」
Mちゃん：「全員で力を合わせたら全部できるかも！」
という提案により、子どもたちの“やりたいこと”をグループにすることにした。
- 「寝床・お風呂グループ」は、「みんなが気持ちよく寝られる寝床」と、「みんなの疲れがとれるお風呂」を考えた。

✦ 自分たちだけの露天風呂作り

- まず、寝床のキャンドルが完成した。そして、お風呂作りへの意欲が増していく中、どんなお風呂にしたいのかみんなで話し合うことになった。
Nちゃん：「みんなの疲れが取れるお風呂にしたいな」
Tちゃん：「元気が出るお風呂がいい」
という声に盛り上がり、具体的に考えていくことになった。
保育者：「疲れが取れるお風呂ってどんなお風呂かな？」
Rちゃん：「温泉」
Yちゃん：「あっ私の家でね、疲れ取れるように泡のやつ入れてる」
Sちゃん：「それ知ってる！Sの家ではね、緑色の入れてるんだよ。良い匂いするし、ポカポカになるんだよ」
- 保育者が、「いいねー！自分たちでできるものってあるのかな？」とさらに聞いていくと…。
Kちゃん：「花風呂とか！」
Tちゃん：「入ったことないけど、聞いたことある」
Nちゃん：「花壇にカモミール咲いてるから、それ入れたら良い匂いになるかも」「綺麗だよ」

- カモミールでお茶を作った経験があることから園にある植物に目を向け、「他にも知ってる先生いるかも」と自分たちで聞きに行く姿が見られた。

Yちゃん：「お風呂に入れられるお花、知ってますか？」

H保育者（幼稚園2・3歳児担任）：「お花じゃないけど、この花壇にミントっていう葉っぱがあるんだよ。匂いかいでごらん」

Kちゃん：「ん？なんかスースーする」

H保育者：「そうですね。暑い日にお風呂にいれたら体がスースーして気持ちよくなるかもしれないよ」

Yちゃん：「みんなに教えよう」



- 実際にお湯にミントを入れ、手をつけてみると、「本当にいい匂いだねー」「スースーして気持ちいいねー」「お泊まり会でミントのお風呂にしよう」と、ミントが自然の入浴剤になることを感じ、お泊まり会でミントを入れることに決めていた。



さらに、「花風呂を作りたい」という気持ちは強く、お風呂に入れられそうな花を探していた。すると、園の花壇の手入れをしていた「保護者の栽培サークル」の母親たちから、「カモミールもそろそろ終わりの時期だから採っても大丈夫だよ」「この花も入れたら綺麗になるんじゃない？」などと教えてもらい、花壇のお花を摘んだ。

早速、自分でお湯を沸かし、花を浮かべる。「わぁー綺麗」「気持ちいいー」「これならみんな喜ぶね」と、大満足の子どもたちだった。



- しかし、次の日になるとお風呂に入れた花はシワシワになっていること気付く。

Sちゃん：「これじゃあ、お泊まり会の時、使えないね」

Hちゃん：「どうしよう…」

Nちゃんの、「もう一回探してみよう」の声に、みんなで探す。しかし、前の日に使っていたため見付からない。他に方法がないか、職員室に聞きに行く。

Nちゃん：「いい匂いのお花知っている（ある）所教えてください」

- 園長から「花屋さんに沢山あるよ。もしかして、いらぬお花もあるかもしれない」と、園でお世話になっている花屋さんの電話番号を教えてもらった。早速、子どもたちが、花屋さんに電話をしてみることになる。

Nちゃん：「もしもし、お泊まり会で花風呂を作りたいです。いらぬお花ありますか？」

- 花屋さんは、「ありますよ。どうぞ取りに来て下さい」と、快く返事してくれた。Nちゃんが、みんなに「あるってー」と声を掛けると、「やったー」と大喜びの子どもたちであった。

✿ 花屋さんとの出会い

- 花屋さんに初めて行く子どもたちもいたため、様々な種類の色とりどりの花に喜びを感じ、よく観ていた。

- 綺麗な花が包装されており、花屋さんから、「これをどうぞ」と渡された。「ありがとうございます」と受け取ると、子どもたちは、綺麗な花をもらえたことで喜んでいた。

- 花屋さんは、「枝が折れてしまったものは売り物にならないんだよ。良かったらまたおいで」と親切に、子どもたちに伝えてくださった。また、子どもたちが花を見ていると、「これは、虫を食べる植物なんだよ」などと花屋さんに教えてもらい、その花を注目する姿もあった。



✿ 考察

- 身近な自然物が入浴剤になることを知った子どもたちは、いろいろな植物に親しみ、よく観たり触れたり、匂いをかいだりなど、感覚感性を発揮して関わっていた。また、実際にお湯の中に花を入れ、自分たちで試したり確かめたりすること

で、匂い、温かさ、心地よさなど、植物のもつ力と自分たちの心と体の変化を感じていた。

- 暮らしの中で職員だけでなく、保護者や地域の人との直接的な関わりが、子どもたちの活動を支え、「科学する心」を深めたり、次の意欲となったりなど、生きる力の基盤に繋がっていると考える。花屋さんという専門家との出会いや多種多様な花との出会いもあり、知識として知っているだけではない“花屋”という職業を実体験として感じたり、花のことを教えてもらったり、自分たちの思いを受け止めてもらったりなど、心揺さぶられる体験となった。このような体験を積み重ねることは、自分たちも地域の一員として大切にされている存在であることを実感し、地域に、より一層の親しみを感じることに繋がると思われる。

無断転載を禁ず。引用する場合は右記を必ず明記願います。「(C)公益財団法人 ソニー教育財団 ソニー幼児教育支援プログラム
幼児教育保育実践サイト <http://www.sony-ef.or.jp/sef/preschool/>」